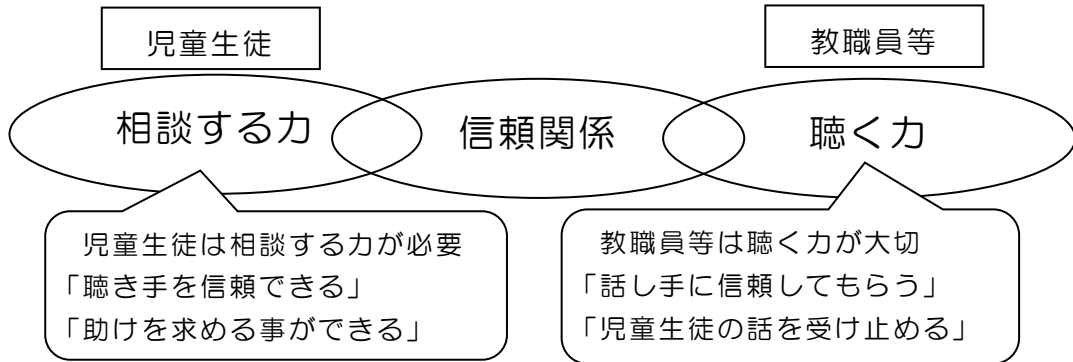


Q2：不登校の未然防止につながる教育相談について教えてほしい。

A：教育相談とは、全ての教職員が学校教育活動全体を通じて、児童生徒をきめ細かに理解するために行うものである。近年、社会環境が大きく変化する中、児童生徒の抱える課題は多様化している。一人一人の悩みを引き出すことで、児童生徒理解につながり、それに寄り添った支援を適切に行うことで不登校の未然防止が期待できる。教職員が高い意識をもち、児童生徒と真摯に向き合うために、教育相談のポイントについて述べる。

1 教育相談を行う際の基本姿勢



不登校は未然防止が大切だと言われる。新たな不登校児童生徒を生まないために、教育相談を有効に活用し、児童生徒との信頼関係を構築することが必要である。

(1) 表現の要素

表現の要素とは、「あなたの話を聴いています」ということが伝わる「非言語の部分」である。言葉以外の態度の部分でも教師がしっかり話を聴こうとしていることが伝われば、児童生徒は安心して話すことができる。

【座席の工夫】
物理的・心理的距離をとる

<斜め>

<横並び>

<L字>

視線	・適度に合わせる
表情	・話の内容に合わせて
話し方	・声の大きさやトーンを合わせる ・丁寧に話す
相づち	・適度な間隔で打つ、うなづく
沈黙	・児童生徒が黙っている時は、考えている場合もあるので待つ
姿勢	・腕や足は組まない ・威圧的な態度をとらない

(2) カウンセリングマインド

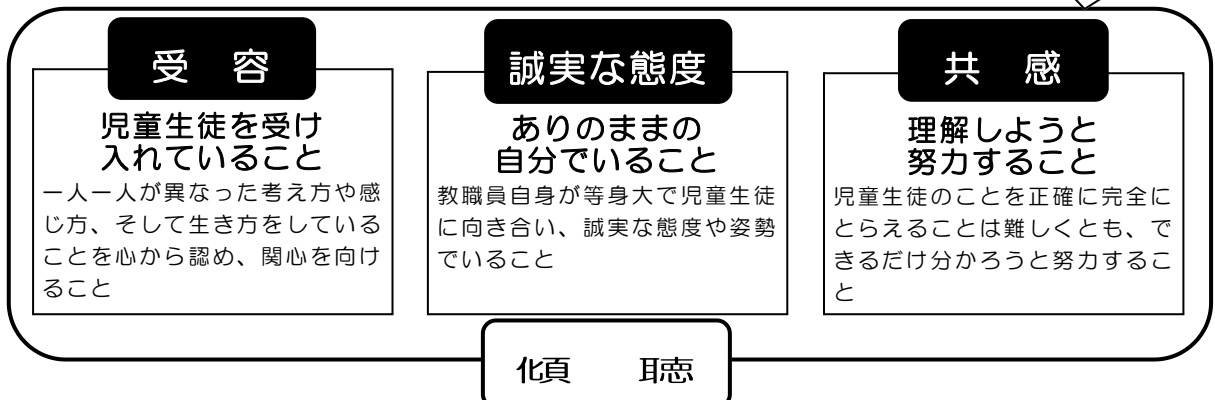
カウンセリングマインドとは、あたたかい信頼に満ちた人間関係を築こうとする態度・心構えである。児童生徒が、教職員に話をしてよかったと感じるのは、教職員が自分の話を分かってくれようとした時である。「相手の話を分かろうとする」ことは、とても重要な態度である。

共感 ≠ 同感

主語が「あなた」
あなたはそう感じるのね

主語が「私」
私もそう感じる

<カウンセリングマインドの3要素>



(3) 傾聴の技法

	内 容	例 S:児童生徒 T:教師
繰り返し	児童生徒が話す内容を、できるだけ忠実に要点をおさえて事実を伝える。(事実を繰り返す)	S:「昨日、眠れなかったんです。」 T:「昨日、眠れなかったんだね。」
	児童生徒の言葉の中で表現されているもの、いないものについて、気持ちを表す言葉や、推察される感情を伝えたりする。(感情を繰り返す)	S:「そう言われて、つらかったんです。」 T:「つらかったんだね。」 S:「クラスに居場所がなくて…。」 T:「寂しいのかな？」 「つまらないのかな？」
明確化	うまく表現されていないものを言語化する。	S:「テストのことを考えるとおなかが痛くなるんです。」 T:「それはよい点数を取らなくてはというプレッシャーでおなかが痛くなるということかな？」
質 問	意味を確認する場合や「積極的に聴いているよ」ということを伝える場合などに質問する。 ○閉ざされた質問…回答が限定される ○開かれた質問 …自由に回答できる ※状況に応じて使い分ける	S:「給食が食べられなくて…。」 T:「体調悪いの？」(閉ざされた質問) S:「はい/いいえ」 T:「何か気になることある？」(開かれた質問)

2 保護者との連携

不登校の未然防止には、児童生徒だけでなく保護者との連携も必要であり、教育相談(面談)は有効である。学校の様子と家庭の様子を共有し、児童生徒一人一人へのその後の支援につなげていく。

保護者に対する教育相談の姿勢(傾聴)は、児童生徒に対するときと同様である。

(1) 教育相談(面談)の流れとポイント

- ①まずは感謝やねぎらいを伝える。
- ②保護者の話を聴く。<カウンセリングマインド、傾聴の姿勢>(家庭での様子等)
- ③学校での様子を伝える。<よいところから、具体的なエピソードで>(学校での様子)
- ④課題となることを伝える。<情報を整理して、客観的に>
- ⑤今後の指導・支援について考える。<保護者とともに考える>

(2) よりよい連携のために

- ①パートナーシップを大切にする
保護者と教師に立場の上下はなく、「子どもを育む」という共通の目標に向かって協力体制を築く。
- ②「子ども」を中心に据える
保護者と教師がそれぞれの立場で「子どもにとって何がよいのか」を考える。

不登校を未然に防ぐためには、日頃の学級経営を核としながら、全ての教職員が一人一人と積極的に関わり、信頼関係を築くことが不可欠である。その上で教育相談の機会が、児童生徒にとって安心して悩みを相談できる場となる。教職員だけでなく、保護者と共に児童生徒の細かな変化に気付き、支えていくことが大切である。

【参考資料】		
・生徒指導提要	R04.12	文科省
・保護者とのよりよい連携のためのヒント	R03.3	総教セ
・児童生徒への適切な指導のために	R02.3	総教セ